

### 前期の生徒指導を振り返って

生徒指導と聞くと、「問題行動への対応」をイメージすることが少なくないと思います。生徒指導提要（文部科学省、H22年3月）には「生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」と記されています。その達成が生徒指導課のミッションです。そのために、成長を促す指導、予防的な指導、問題解決的な指導と援助レベルに応じた指導を行うよう心掛けています。生徒指導は授業をはじめとした学校で行われるあらゆる教育活動を通して行われます。その中で、重要視している「成長を促す指導」と「予防的な指導」への取り組み状況を振り返ってみます。

- 1 自己存在感、共感的人間関係、自己決定をキーワードに各行事への取り組みを促しました。

各行事におけるアンケート結果（運動会→スポーツ祭→白堊祭の順に肯定的回答の%の推移）

自己存在感 58% →85% →92%

共感的人間関係 63% →89% →92%

自己決定 72% →90% →92%

\* 運動会のみ「あった」、「なかった」、「どちらともいえない」の3択

今年度の大きな行事は1月の予餞会を残すだけとなりました。予餞会では3つのキーワードへの「意図的な仕掛け」を促していきたいと思います。

また、美術部が宮古高校と共同で宮古市内の子どもたちと創作活動するワークショップを開催しました。今後はこういった生徒たちの社会貢献、地域貢献活動も紹介していきたいと思います。

- 2 いじめ防止、交通安全に「予防的な指導」を心掛けました。

いじめアンケート、生徒・保護者の方からの相談や情報提供に「学校としての」早期対応を心掛けました。実際に保護者の方、生徒からの情報のおかげで、いじめの「重大事案」への重篤化を防ぐことができたケースがあります。日本のいじめは諸外国と比べ、「暴力系のいじめ」ではなく「コミュニケーション操作系のいじめ」が増えています。私たちの目の届かないところでいじめが進行していることもあります。気になることがありましたらご相談ください。

交通安全指導については、年間計画に基づいたものの他、保護者の方、地域の方からご指摘いただいた場所での指導を行い、事故の未然防止に努めました。自転車の事故は夏休み前には13件、その後落ち着きましたが、10月24日（月）現在の自転車事故の件数は15件となっています。多いケースとしては、歩道走行時の衝突、発進しようとした自動車との衝突、左折時の車両への巻き込まれです。

校門前は一時停止の標識があります。朝の時間は左からは徒歩の中学生も歩いてきます。交通事故加害者にならないよう、自転車の一時停止を遵守しましょう。



文責：生徒指導主事 青木 裕信

TEL 019-623-4491